

講演会資料~3年生を送る会~ (1995, 12, 23PM1:30~米子西高校)

演題 「挑戦」

1, 挑戦の意義

何故物事に挑戦して行くか。

よく大会などに参加するときに聞く言葉で「参加することに意義がある」というのがある。これは正しいかどうか。この境界線を引くには競技そのものが自分にとって、チームにとって（遊び）であるか（スポーツ）であるかということである。最近スポーツの要素にはあざびが少なすぎるということも問題になっているが、正確に言う遊びスポーツか競技スポーツかということである。このようにレベルによっても違いがある。その人自身の価値観によって違いが出て来る。ゴルフ雑誌のある欄にジャンボ尾崎と堀内孝雄の会話がかかっていた。堀内のゴルフの腕前に感心したジャンボは「もうそろそろゴルフをスポーツとしてやった方がいいんじゃないか」と言ったそうです。草野球の外野手を例にとってその人が、草野球を遊びとして捕らえていればその人は自分のファインプレーを目指しているのである。もしその人が草野球をスポーツだと捕らえていればその人が目指しているものは、プレーを見ている人全員がファインプレーだと認めるようなプレーを目指しているのである。そこには見ている人に感動を与えるようなことも出来るであろうし、勇気を与えることも出来るのではないか。もちろん個人の自由で人それぞれなのですが、

私達の目指すのはあくまでも競技スポーツである以上「参加すること」だけでは決して意義はないものであると考える。参加してその過程なり結果なりが必ず今後の活動に生きてこなければ意義はないということである。試合で負けたのなら、なぜ勝てなかったのかを考えるが大切。次に勝つためにはどう取り組んで行けば良いのかを考える。そして実行する。何も考えずに今までどうりの練習を実行しているのであれば結果も恐らく同じであろう。もし自分がより

れてしまう時ほど、つまらない試合はありません。「あせり」「不安」などを感じるのはこのような状態になっているからであると思います。

《駅伝のたとえ》

選手は任された区間の中間点までは自分のペースで走ることを心がける。残りの半分で勝負に出るかが問題で、つまりペースを上げるか、飛ばさないで維持するかを決めるという。自分自身の体調を知り尽くしていなければこの判断が出来ない。まして、自分ひとりレースではないのだから、判断が間違えば大ブレーキにつながるであろうし正しければチームへの勝利へとつながるのである。そういうチーム全体の問題になって来るのである。だから自分の力量を知り流れを作れる選手でなければならない。

《富山での失敗》

《その後の練習》鳥取IHに向けて

- ・集中力を高める。
- ・流れを作る。

個人的技能で勝敗が決まる個人スポーツでは自分の力量を知る事は非常に大きなポイントになって来ます。では集団スポーツではどうでしょうか。自分の力量を知ることは必ず必要であります。チームメイトの力量も知る必要もあります。これが「思いやり」につながって来ます。ちなみに私は個人スポーツである飛込競技を選手には集団スポーツであるという考えで指導しています。競技であ